

健康文化

花粉症の患者さんは果物にご用心！

鳥居 新平

ホテルに到着するとレイを持ったハワイ大学の小児科のZ教授夫妻らの出迎えをうけた。その歓待ぶりに少々面食らったことを覚えている。

この会の発端は日米の小児科のアレルギー専門医が親交を深め、学問上の情報交換を目的として始められた会であり、最初は東京で開かれ、その折りのシンポジウムの司会を一緒に務めたのが彼と知り合ったきっかけである。

ロビーに続く吹き抜けの中庭にはさらに水の上に広がるテラス、プライベートプールなどその豪華さに目を奪われているうちに部屋に案内されました。

会場になったハワイ島のMホテルはファイブ・ダイヤモンド賞に輝く世界一流のホテルの一つであるということである。

日本の医師と米国の医師の経済上の格差をまざまざと見せつけられた感じをもったのは私のひがみかもしれない。

部屋には歓迎のメッセージカードとともに色とりどりの新鮮なトロピカルフルーツの数々が盛り付けられた大きな皿が用意されていた。思わず生つばを飲み込み、果物とナイフを取り上げた時、ふっとあることを思い出した。

それは私の外来に母親に連れられて全く困り果てたという面持ちで来診した23歳の女性のことである。

彼女は結婚式を目前に控え、おそらく一生のうちでも最も幸せな時期であるこの時期になんともならない悩みごとができたのである。

新婚旅行先はハワイで彼とマリンスポーツやトロピカルフルーツなどを存分に楽しもうと計画を練っていたのであろう。

ところが彼女はリンゴを食べると口の中が痒くなり、唇が腫れるばかりか飲み込むと食道のあたりはかなり激しい痛みさえ現れることがあり、リンゴ以外の果物も避けていたようである。新婚旅行先でお岩のように顔が腫れ上がったら楽しい旅行も台無しである。そこでリンゴ以外の果物でも本当にアレルギー症状が現れるのかどうかを診断して欲しいと来診したのである。

取り敢えず手元にあるアレルゲンエキスを調べたところリンゴ、ナシ、スモモ、ビワ、キウイ、クルミなどにもアレルギーがあり、スギとイネ科花粉症ば

かりでなく、シラカンバ花粉にも強いアレルギーがあることが明らかになった。

スギ、イネ科花粉症があることは既に医師の診断も受けたことがあり、了解していたが、シラカンバに関してはこれまでの生活環境ではこの花粉との濃厚な接触は考えられないので、これほど強いアレルギーができた理由については私自身も納得できなかった。

ところがこれを説く鍵は彼女のリンゴアレルギーにあったのである。すなわちシラカンバの重要なアレルギー成分はプロフィリンというタンパクであること、これと極めて類似しているプロフィリンがリンゴにあることが明らかにされているからである。このようなタンパクはその他の果物、野菜、木の実類に含まれていることも現在明らかにされつつあるのである。

北海道における調査（山本ら）ではシラカンバ花粉症の患者さん83人中17人にリンゴアレルギーがみつかったという報告がある。

この報告ではシラカンバアレルギーが強い人にリンゴアレルギーが多いことから最初はシラカンバでアレルギーになりその結果、共通成分をもったリンゴにもアレルギーが出てしまったという解釈をしているが彼女の場合はこれの逆が考えられるのである。

花粉症と果物、野菜アレルギーの関連は欧米では注目され研究も進んでいる。

例えばシラカンバ花粉症にはリンゴ以外にもモモ、サクランボ、ナシ、スモモ、アンズ、ジャガイモ、セロリ、パセリ、タマネギ、ヘーゼルナッツ、ブラジルナッツ、クルミ、ピーナッツなどがある。

ブタクサ花粉症ではスイカ、メロン、バナナ、キュウリなどがある。

イネ科花粉症（カモガヤ、オオアワガエリ、ホソムギ、イネ、ススキ、ヒメシバなど）ではキウイ、トマト、ジャガイモのアレルギーが合併しやすいといわれている。

またヨモギ花粉症ではセロリアレルギーが多いといわれている。

果物・野菜アレルギーの症状は唇や舌が腫れたり、口腔粘膜のかゆみ、灼熱感など口の周辺に症状がでることが多いので口周辺アレルギー症候群（oral allergy syndrome）と呼ばれている。ところがこのような症状に続いて、のどの痛み、声がれ、腹痛、急性鼻炎、結膜炎などを起こすことがある。また皮を剥くとき指がかゆくなったり、赤く腫れたりすることがある。また激しい症状では喘息発作やアナフィラキシーショックを起こすこともある。

うっかり見過ごされ勝ちな果物アレルギーはとくに花粉症の患者さんでは注意しなければならない。

さてこの私には彼女に安心して南国の新婚旅行を楽しんでいただく対策を伝

授する宿題が残っていた。

激しい症状を起こすことがあるバナナは大丈夫でしたが、調べることができなかったトロピカルフルーツの数々がある。

一般にこのようなアレルギーを起こす人でも食品に熱を加えるとアレルギーを抑えることができることが多いが、さすがに果物を煮て食べなさいとは冗談にもいえない雰囲気であった。

最近開発が盛んである抗ヒスタミン作用のある抗アレルギー薬を処方し、旅行中飲むよう勧めた。

無事新婚旅行を楽しむことが出来たとの報告にホットした訳だが、薬がある程度効いたのか、ご主人の理解と協力で食べ物に注意したためか、おそらくこれらの相乗効果があったのであろう。

このようなアレルギーはどちらかといえば年長児や成人に多いが、最近3歳児の典型的なキウイアレルギーを経験している。この患者さんはブタクサとヨモギの花粉に対するアレルギーをもっていた。

最近の研究から花粉や果物などに共通して含まれるアレルギーを起こす成分がさらに明らかになればこれを用いて花粉症も果物・野菜アレルギーも一挙に解決できる可能性も指摘されている。

豪華な雰囲気にホテルにあって米国の医師と日本の医師の貧富に差に思いをいたし、おいしそうな果物を目前にして果物アレルギーの惨めな話を思い出すなど、こういう人間を貧乏性というのかひねくれているというのか思わず我と我身が情け無くなる思いをした。

午前中は学術集会、午後は隣接したゴルフ場でゴルフやクルージングを楽しみ、毎夜浜辺でパーティを楽しむなど3泊4日の滞在期間はあっという間に終わってしまった。

(名古屋大学医療技術短期大学部教授)